



11 / 16

新そば召し上れ

新そばまつり開催

毎年恒例の「新そばまつり」が、そば道場駐車場で開催され、新そばを味わおうと村内外から多くの人を訪れました。

まつりは、久木野保育所園児の鼓笛隊演奏で開幕。その後、久木野中学生の力強い太鼓演奏が会場を盛り上げました。

今年の新企画で「そば投げ選手権」を開催。子どもや男女ごとに分かれた参加者たちは、『新そばまつりー』など思い思いの言葉を叫びながら、飛距離を競い合いました。

まつりの目玉として行われる恒例の「そば大食い大会」では、子どもは2人前、大人は3人前の大盛りそばを用意。顔が隠れるほどの大きなお椀に盛られた熱々のそばを、参加者たちは黙々と頬張っていました。

まつりに訪れた熊本市の女性は、「先日、他のイベントで南阿蘇村のそばを食べ、それがきっかけで来ました。新そばは、また味が違っておいしいですね。そばがきは、4杯も食べてしまいました」と笑顔で話されました。



久木野中学生の力強い太鼓演奏



飛距離を競い合った「そば投げ選手権」



そばを移し替えながら食べる参加者たち「そば大食い大会」



行列ができた新そば(かけそば)販売



かけそばを堪能する来場者「新そば、おいしいですね〜」



巧みな包丁さばきの「そば打ち実演」



醤油に黒砂糖をまぶすなど食べ方いろいろ「そばがきこ」。「おいしかよ〜」



「そば大食い大会」で準備された3人前のそば



まつり終盤は、歌とトークで会場を盛り上げた「そばってん白川ショー」

11/17

観光客の安全を願って

交通安全協会吉田支部と熊日販売店店主会が合同清掃

事故のない観光地を目指そうと、阿蘇南部地区交通安全協会吉田支部（家入清興支部長）5人と熊日販売店店主会阿蘇ブロック（理事 赤水販売店 池田睦）の会員ら15人が清掃活動を行いました。

この取り組みは、同支部の磯崎三千男さん（吉田一）の呼びかけがきっかけで、熊日会の県下一斉清掃活動と併せて実施されたもの。清掃は、白川水源周辺のカーブミラー磨きが行われ、参加者たちは一枚一枚ていねいに磨き上げました。

磯崎さんは「ここは多くの観光客が訪れます。観光客には事故なく楽しんでほしい」と話されました。



カーブミラーを磨く熊日販売店店主と交通整理をする交通安全協会吉田支部

11/16

自然で遊ぶって楽しい

親子ヤマメ放流キャンプ

親子で遊びながら自然を学ぼうと、11月16日と17日、久木野地区一帯で「親子ヤマメ放流キャンプ」が行われました。

キャンプには村内外から親子28人が参加。初日は、ヤマメの稚魚を放流後、アウトドアの達人として講師に迎えた原田秀夫さん（喜多）ら3人の指導を受けながら、ペットボトルで作った魚の仕掛けを白川に設置しました。

17日は、地蔵峠の探索や、石を削って絵の具状にしたものを顔に塗るストーンフェイスペインティングを楽しむなど、参加者たちは充実した一泊二日の親子キャンプを過ごしました。



魚の仕掛けの説明をする講師の原田秀夫さんと参加者たち

11/17

日ごろの練習の成果発揮

第17回阿蘇郡市ジュニアバドミントン大会・第30回全九州小学生バドミントン大会

阿蘇郡市ジュニアバドミントン大会が長陽中体育館、長陽体育館で行われ、本村の南阿蘇ジュニアバドミントンクラブが好成績を収めました。

試合では、阿蘇郡市の小学生160人が出場する中、同クラブは、男子が各学年シングルス、ダブルス共に優勝。女子もダブルス優勝をはじめ、3位入賞が2組と大健闘しました。

また、11月8日から10日にかけて行われた、第30回全九州小学生バドミントン選手権大会（那覇市）では、県代表として同クラブから田所秀翔・米村和真（4年生）組が出場。試合は、全国大会出場をかけた5位決定戦で惜しくも敗れ、涙をのみましたが、来年につながる成績を残しました。今後の活躍が期待されます。



多くの表彰状を手にする南阿蘇ジュニアバドミントンクラブの子どもたち

〈大会結果〉

■優勝

シングルス

6年生男子 今村隆太
5年生男子 米村亮真
4年生以下男子 田所秀翔

ダブルス

6年生男子 今村隆太・田所秀翔 組
5年生男子 米村亮真・藤岡 蓮 組
4年生以下男子 米村和真・市原 純 組
5年生女子 丸山倫果・古澤優花 組

■2位

シングルス

4年生以下男子 米村和真

■3位

ダブルス

6年生女子 田所美月・坂本妃奈乃 組
4年生以下女子 今村文咲・家入莉奈 組



11/25 きれいな花を咲かせてね 平成25年度 阿蘇地域育樹祭

阿蘇地域みどり推進協議会が行う「平成25年度 阿蘇地域育樹祭」が、県野外劇場アスペクタで開催され、緑の少年団（久木野小6年生・南阿蘇西小5・6年生）や、県村関係者など約120人が参加して行われました。

式典では、緑の少年団を代表して久木野小6年の中村みゆさんと南阿蘇西小6年の橋本耕助くんが、「森をみんなで育てていきたい」と誓いの言葉を述べました。

育樹活動では、モミジ・ナンゴウヒ・ケヤキが植樹され、緑の少年団たちがカワツザクラやヤマザクラの木約1000本に肥料を与えました。



サクラの木に肥料を与える緑の少年団

11/27 中松小児童の発明作品受賞 第48回熊本県発明工夫展

「第48回熊本県発明工夫展」が開催され、中松小学校6年生の郷萌々香さんと尾方麻由さんが考案した「オリジナル水時計」が、熊本県発明協会会長奨励賞を受賞し全国の作品展に出品されました。

作品は、夏休みの宿題として制作。郷さんと尾方さんは、砂時計をヒントにペットボトルやストローを利用して色の変化も楽しめる水時計を完成させました。

郷さんと尾方さんは、「水の落ち方を工夫するのが難しかったです。受賞してビックリしたけど、うれしかったです」と喜びを話してくれました。



発明協会会長奨励賞を受賞した郷萌々香さん(左)と尾方麻由さん(右)

11/17 ボランティアの輪を広げよう 第7回みなみあそボランティアまつり開催

「第7回みなみあそボランティアまつり」が久木野総合福祉センターで開催され、村内外から約300人が訪れました。

まつりでは、「菜の花クラブ」の合唱で幕が開き、南阿蘇西小学校の児童や、ママサポートクラブ、吉田一区の皆さんが、日ごろのボランティア体験を発表。健康チェックなどのコーナーや屋外では炊き出し訓練も行われました。会場では元マラソンランナー松野明美さんの講演会や、高崎裕士さんの津軽三味線、タヒチアダンスなどもあり、まつりは大いに盛りあがりしました。



多くの人で賑わうボランティアまつり会場

11/27 尿の悩みを解消 高齢者学級開催

本年度第5回の高齢者学級が久木野総合センターで開催され、村老人クラブ会員(60歳以上)211人が参加しました。

この日は、阿蘇立野病院泌尿器科の中原王寿先生を講師に迎え、尿の悩みをテーマにした講演会を開催。自分でできる尿失禁の治療法や対策法では、薬物や手術療法、トレーニング療法の他、日常生活で取り入れられる運動が紹介され、参加者たちは映像を見ながら実践したり、真剣な表情でうなずいていました。

高齢者学級は年に6回開催。次回は3月に開催します。



講演をする中原王寿先生と参加者

12/3 オリジナルのスーパーボールを作ろう 久木野小学校放課後子ども教室

久木野小学校の放課後子ども教室で、1年生から3年生の児童29人が、高森高校の生徒たちと、スーパーボール作りに挑戦しました。

この日は、高森高校理科部の先生と、1年生から3年生の生徒11人が来校。スーパーボールは、洗濯のりに食塩水と絵の具を加え、化学反応でできた物体を丸めて完成。混ぜ方次第でボールの大きさが変わるため、児童たちは慎重な手つきで液体をかき混ぜていました。

3年生の今村快登くんは「ねばねばしていて気持ちいい」と楽しそうに作っていました。



取り出した物体を丸める児童と高森高校の生徒

11/29 長年の地域活動に総務大臣表彰 古庄則光さん（袴野）

「平成25年度自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰式」が総務省（東京都）で行われ、袴野区の古庄則光さんが表彰状と記念品を授与されました。

古庄さんは21年間の長きにわたり、袴野区の区長として地域活動に貢献。今回、その功績が認められての表彰となりました。

古庄さんは、「表彰されたのも、皆さんからご支援いただいた結果です。これからも、地域のために一生懸命頑張ります」と喜びを話されました。



表彰された古庄則光さん

12/7 プロの演奏にうっとり こどもとおとなのためのファミリー弦楽コンサート

プロの演奏を家族で楽しんでもらおうと、「こどもとおとなのためのファミリー弦楽コンサート」が神楽の里公園神楽殿で開催されました。

コンサートは、地域住民で構成する「神楽の里をもりあげ隊」が、村の頑張る地域支援補助金を活用して行ったもの。熊本を中心に活動する演奏団体「熊本ミュージックアーティスト」の4人が、ヴァイオリンや電子ピアノ、打楽器で、クリスマスソングや映画のテーマ曲など12曲を演奏しました。

この日は親子約50人が訪れ、手拍子を送ったり口ずさんだりと、プロの演奏に魅了されていました。



ヴァイオリンなどの演奏に聞き入る来場者

12/6 農産物加工食品 銀賞と銅賞 平成25年度阿蘇地域農産物加工食品コンクール

8月に開催された「平成25年度阿蘇地域農産物加工食品コンクール」で、第七駐在区の「やまなか庵」が出品した「ドライフルーツマト」が銀賞、立野区の(有木之内農園)が出品した「阿蘇高原のいちごジャム」と「ブルーベリージャム」が銅賞に輝き、その授賞式が阿蘇駅構内で開催されました。

「ドライフルーツマト」を作った「やまなか庵」の山中美由樹さんは、「トマト嫌いでも食べられるようにフルーツみたくなお菓子があればと思い作りました。これからも改良を加えて頑張ります」と意気込みを話されました。



ドライフルーツマトで銀賞に輝いた「やまなか庵」の山中大輔・美由樹さんご家族